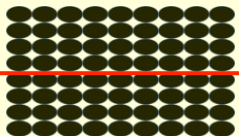
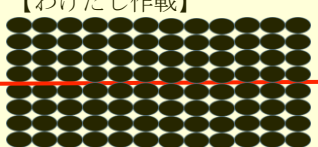


第2学年2組 算数科 かけ算（2）8の段の構成

段階	自己調整学習活動・予想される児童の反応	本時見られた深く学び続ける子どもの姿	配時
導入	1 前時までの学習を想起し、本時のめあてをつかむ。 ○本時の問題を確認する。 ・「8の段の九九をつくりましょう。」 ○既習の作戦（かけ算の性質）を想起して、見通しを立てる。 ・たしたし作戦（同数累加） ・まえたし作戦（積の増え方） ・いれかえ作戦（交換法則） ・わけたし作戦（分配法則）	○ 既習の作戦の掲示物や前時の板書を見ながら、今回の8の段の構成を比較し、本時のめあてを各自で立てる姿が見られた。	5
展開	めあて 8の段のつくり方を考えよう。 2 8の段のつくり方を自己調整しながら考える。 ○8×7までを簡単な方法で自己選択・決定して、交流する。 【まえたし作戦】（積の増え方） $8 \times 1 = 8$ $8 \times 2 = 8 + 8 = 16$ $8 \times 3 = 16 + 8 = 24$ $8 \times 4 = 24 + 8 = 32$ $8 \times 5 = 32 + 8 = 40$ $8 \times 6 = 40 + 8 = 48$ $8 \times 7 = 48 + 8 = 56$ 【いれかえ作戦】（交換法則） $8 \times 1 = 8$ $8 \times 2 = 2 \times 8 = 16$ $8 \times 3 = 3 \times 8 = 24$ $8 \times 4 = 4 \times 8 = 32$ $8 \times 5 = 5 \times 8 = 40$ $8 \times 6 = 6 \times 8 = 48$ $8 \times 7 = 7 \times 8 = 56$ ・【まえたし】でも、【いれかえ】でも、簡単にできた。 ○8×9までを自己選択・決定して、交流する。 【まえたし作戦】 $8 \times 8 = 56 + 8 = 64$ $8 \times 9 = 64 + 8 = 72$ 【わけたし作戦】 （分配法則）  ・8の段でも【まえたし】は、最後まで簡単に使えた。 ・【わけたし】は、半分の4×9をして足せばよいので簡単。 ・はじめからの【たしたし】は面倒。【いれかえ】はできない。	○ かけ算の増え方のきまりを使って、8×7までを作る場を設定したことで、＜効率的＞な方法を自己選択・決定して構成する姿が見られた。	15
	3 8×12のチャレンジ問題を自己選択・決定して、交流する。【絵図作戦】 【まえたし作戦】 $8 \times 10 = 72 + 8 = 80$ $8 \times 11 = 80 + 8 = 88$ $8 \times 12 = 88 + 8 = 96$ 【わけたし作戦】  ・8×12だけなら「⑧の12こ分」を数えるとできる。 ・【まえたし】で続けると「8ずつ増えるので」簡単にできる。 ・4の段と4の段に分けると、半分だけを求めて足せば簡単。	○ 8×8からは、交換法則が使えないといった子どもの発言をひろって8×8、8×9を構成する場を設定したことで、ほかの方法を使って柔軟に考えを作りかえる姿が見られた。また、ICTを使い分配法則の分け方について交流することで、自分もやってみようと思意欲的な姿も見られた。	10
	4 本時学習を振り返ってまとめ、次時へつなぐ。 ○ 自分の学びを振り返って、本時を自分の言葉でまとめる。 ・8の段も答えが8ずつ増えるきまりを使って最後までできた。 ・8の段は半分に分けて計算して足すきまりが簡単に使えた。 ・9の段でもきまりの中から簡単なやり方を選んでいきたい。	○ これまでの九九にはない、8×12のチャレンジ問題の場を設定することで、効率的に考えを作る子、柔軟に考えを作る子がいた。ICTを使い友達の考えと比較することで自己選択・決定する幅が広がった。	5

- かけ算の構成において、前時との比較活動で動機付けを行うことで、今日は、なんずつ増えるのかといった見通しをもって学ぶ子どもの姿が見られた。展開場面では、既習の作戦から自己選択・決定することで自分なりの効率的な方法や根拠がある柔軟な考えが見られた。振り返り活動では、メタ認知できる視点をもたせることで、次時に繋がる・友だちの考えを真似したいなどの振り返りが見られた。
- 単元全体での自己調整（2の段だけ全体でして残りの段は自分で進める）なども必要なのかなと感じた。